

(1)継続した地域課題について

①聴覚障がい児への支援について知ることが必要

県立ろう学校等の協力を得ながら、研修会を開催する。

・日にち:令和3年12月24日(金)

・対象者:障がい児通所支援事業所

※詳細については、検討中。

②教育と福祉の相互理解が必要

障がい福祉課として、県特別支援教育センターの主催する「教育と福祉との連携・協働検討会議」及び市学校教育課の主催する「福井市特別支援教育専門委員会」にそれぞれ出席した。

今後、福井市特別支援教育専門委員会における地区別協議会(市内の特別支援学校や小中学校が地区別で構成される)で、福祉分野の事業所等が参加できる仕組みを構築し、合同研修会などを行えるよう検討している。

③支援学校卒業後も安心して生活できる環境を作るための支援体制を在学生のうちに整えておくことが必要

今年度、オンラインにより開催する予定で検討中。

※詳細については、[資料3-2](#)のとおり。

【参考】

- ・ことばの教室について、委託先である市社会福祉協議会に対して、市子ども福祉課が委託している「子ども家庭センター相談室(アオッサ内)」の概要を伝えた。市社会福祉協議会及びことばの教室の先生が9月中に子ども家庭センターの見学をし、今後の連携に向けた意見交換を行う予定となっている。
- ・子育てファイルふくいっ子について、9月中に部会長及び事務局が県障がい福祉課との意見交換等を行うことで調整している。
- ・市の健康管理センター、子育て支援課、子ども福祉課の三課における「妊娠期から子育て期の継続的な支援に関する庁内連絡会」が8月17日に開催され、障がい福祉課としても参加した。今回は主に妊娠期から就園するまでの時期に関する養育上の支援が必要な家庭への支援や連携のあり方などを話し合った。今後も引き続き参加予定。